

# 職場における交通安全指導 Part.14

## トラック事故はこうして起きる

～ 過去のまとめ～

職場における交通安全指導では、実際に起きた事故事例を基に事故の発生状況、原因、更には防止策と指導のポイントを、これまで13回に亘り掲載してまいりました。

その項目をここで整理しますと、次の通りとなっています。

- 第1回 交差点の安全な通過方法～右折時の安全走行
- 第2回 同～左折時の安全走行
- 第3回 同～直進時の安全走行
- 第4回 同～信号機のない交差点
- 第5回 高速道路における交通事故発生状況とその特徴(...Web掲載なし)
- 第6回 高速道路の安全な走行方法
- 第7回 高速道路の危険箇所とその対応
- 第8回 トラックの多発事故パターン<追突事故( )>
- 第9回 同<追突事故( )>
- 第10回 多発事故パターン( )交差点右折時の対歩行者事故と構内のバック事故
- 第11回 同( )右折待機中の前車追突事故と構内より右折時、対二輪車事故
- 第12回 渡り遅れの対歩行者事故
- 第13回 車線変更時の事故防止

いずれも掲載した内容だけで決して十分ではありません。しかし、ここに取り上げたものは、あくまでも安全運転の基本となるものです。

本号より2回に亘り、これまで掲載した内容の中で重要と思われる項目について幾つか掲げ、指導ポイントをまとめ掲載いたします。

### (指導のポイント1)

#### ～ 子供の飛び出しへの対応～

一般道路や路地では、子供の飛び出しに注意してください。

反対側歩道に親や友達等がいる場合、交差点でも交差点以外でも、反射的に飛び出します。また、路地等の生活道路では、子供の遊び場となっており、遊びに夢中になっている子供が飛び出してくる危険地帯です。

従って、子供を見たならば、その動向に十分に注意し、また駐車車両や電信柱等の物陰からの飛び出しを予測し、いつでも止まれる徐行運転が必要です。



### (指導のポイント2)

#### ～ 老人への対応～

老人の交通事故の多くは歩行中に発生しています。老人の場合、体力や感覚が衰えているため、危険に対する咄嗟の判断に乏しく、車に対して、敏捷な行動がとれません。往々にして、信号の見落とし、走行車両速度の判断ミス等により、「信号無視」「車の直前直後横断」「横断禁止場所横断」を行います。

従って、老人を見かけたときは、まず減速することが必要です。



**(指導のポイント3)**

**～ 自転車への対応 ～**

自転車はバランスを崩しやすい乗り物ですから、自転車を追い越す時、擦れ違う時などは非常に危険です。走行車両の風圧でバランスを崩し、転倒するケースもあります。また、前方走行自転車が急に道路中央に出てきて接触あるいは衝突のケース、道路横から加速してきた自転車との衝突のケース等があります。

特に、自転車の追い越し、擦れ違い時には、十分な側方間隔をとって、徐行することが必要です。自転車が子供や老人のときは、特に注意しましょう。

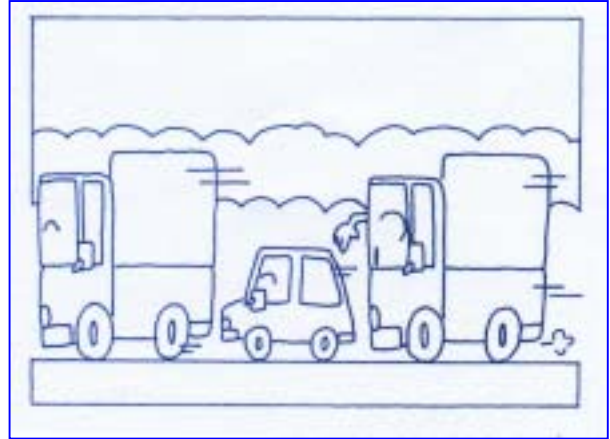


**(指導のポイント5)**

**～ 間に入った乗用車への対応 ～**

大型トラックと大型トラックの間に乗用車が入った時、トラックの運転席が高いため、車高の低い乗用車をつい無視して、一台前のトラックの後部だけを見て走ることから、乗用車に追突するというケースが多々あります。

こうした状態の時は、大型車のみを視るのではなく、乗用車の動きにも十分注意する必要があります。



**(指導のポイント4)**

**～ 挙動不審の乗用車への対応 ～**

地図を見ながら、あるいはキョロキョロしながら走行している他府県ナンバーの車、右に左に頭を出して追従走行する車など、不審な動きや自分勝手な運転の車は、急停止、急発進、急ハンドル操作をすることが多々あるので、接近すると極めて危険です。このような車には、十分な車間距離をとることが必要です。

